



ある晩おそく、トントントンと戸を
たたく者がいたんでな、出てみると一
人の小男こおとこがいて、

「うちのかみさんが、お産さんで苦しがつ
てんだ。早く来てくんにかな。」

っていたんだと。

気がるなお医者さまはな、すぐか
ごに乗って出かけてみると、向かい
寺の北川きたがわのあたりのひどいあばら屋
だったんだと。屋根や壁はくずれか
け、すわったまま月が見えるような
家だったんだと。